



# 原子力新時代の幕開け

顧問 藤家 洋一

20世紀の中ごろ原子炉が出現し、レントゲン以来の放射線の利用に加えて、核エネルギーの解放が始まった。その最初の威力は不幸なことに原子爆弾によって示されたが、人類の英知はその後これを繰り返すことなく、平和利用に向けてこれまで研究開発を続けてきた。その結果、原子力発電は基幹電源としてその地位を確保し、放射線利用は科学技術の世界から社会にその応用分野を広げてきている。しかし残念なことに社会は原子力をまだ十分自らと共存する存在と認識するにいたっていない。我々が生きている自然が生態系で組み立てられていることであろう。化学反応は見えても核反応の世界をかいま見することは不可能に近い。

産業革命以来の化学反応に根ざす文明は200年の間に快適な生活をエンジョイする状況から、地球温暖化現象に見られるように環境との折り合いを悪くし

て、曲がり角にさしかかっている。21世紀社会は資源の大量消費に乗った快適さから脱却して、むしろ環境保全がより高い理念として求められている。リサイクル社会、リサイクル文明に対する認識が強くなってきている。しかし、これまでの文明の所産を捨ててまで進めることが社会的に可能であろうか？ むしろ資源を確保し、環境保全を図りながらリサイクル文明を構築していく道がないのでであろうか？ エネルギー資源の大転換がそれを可能に出来ないのだろうか？ 化学反応から核反応へ、原子力に求められるのは、原子力が満足すべき条件とはなんであろうか？ 一つは文明の総体に迫る原子力の全体像と道筋の提示であり、今ひとつは存立の基盤を構築する上で不可欠な安全の本質と実績に対する説明責任を果たすことであろう。世界は新しい幕開けを迎えている。原子力の明日は明るい。